

令和 2 年 度 学 校 関 係 者 評 価 結 果 表

評価項目	評点	具体的内容	意見等
1. 教育理念・目的 ・育成人材像等	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育理念・目的・育成人材像は明確になっているか</li> <li>・各学科の教育目標・育成人材は業界ニーズに向けて方向づけされているか</li> </ul>	<p>(吉田) SDGs 経営やDXなどこれまでにないスピードで社会が変化する中で日本、世界の先端の動きや情報に敏感で、それを翻訳して学生に伝えられる力を有した講師陣による教育が不可欠だと感じる。</p>
2. 学校運営	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織や意思決定機能は組織的で明確になっているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切に行われているか</li> </ul>	<p>(知野) 先生一人一人に対して評価し学生の意見も添えられていますが、指摘された点について先生が委縮されないように注意されケアする必要があります。私自身も経験が多くありますが、一生懸命やっているのに否定的な意見を聞くとがっかりすることもあります。いずれ札幌市のトップ専門学校として評価されると思います。自信をもって運営にあたって下さい。</p> <p>(吉田) 「一専門学校」として他の専門学校と同じ土俵で戦っても、少子化の波は止められず、募集にも限界がある。札幌商工会議所が運営する専門学校という全国唯一の特性を最大限に活かし、「あなたの働く人生を経済界が生涯にわたって支援します」というく北海道を代表するビジネススクール&gt;のような大胆な転換も考える時期に来ているのではと思う。</p> <p>(藤井) これから人口減少していく中で専門学校というものが選ばれていくのか疑問に思っています、あくまで個人的な疑問ですが。短大がいいのか大学がいいのかもよくわかりませんが、自分の子供には極力大学を目指すよう言っています。</p> <p>(藤井) 学校にはしっかりと魅力があるので、これから入ってくる学生に伝わるといいですね。</p> <p>(久野) 「卒業生学校生活アンケート」結果から、ほとどの項目においても総じて「やや不満」「不満」の割合に減少傾向が見られることは評価できる。改革の結果と言ってもよいのではなかろうか。</p>
3. 教育活動	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針が策定されているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準が明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業が行うことが出来るよう要件を備えた教員を確保しているか</li> </ul>	<p>(知野) 全体の印象としては、本当に一生懸命生徒さんの立場に立って努力し改善しようとする姿勢に共感します。</p> <p>(吉田) 今後、就職が困難になってくることも予想される中で、「手に職」をつけられる実践的教育の必要性は高まってくるように思う。他の専門学校では取得できない、時代に即した高度な資格取得や実践力を養う教育は一層大きな強みになると思う。社会人教育は社会への貢献としても続けるべきであり貴重な財源にもなっているが、もっと視野を広げて「一人一人のビジネスライフを生涯にわたって支援する」というくらいのスタンスを打ち出してもいいように思う。新入社員教育、職種別教育、幹部教育など組織で働く場合のプロセスに応じた教育プログラムを提供すれば、札幌商工会議所の会員企業の人材教育を一手に担うことができる可能性がある。また CA の卒業生が、卒業後も CA で継続的に学び続けられるプログラムを作れば、それは学生募集においても大きな強みとなる。オンライン教育が当たり前になった今、札幌という地域にこだわることなく、生涯にわたってビジネスの学びを支援する学校という新たな存在価値を打ち出すことも可能だと感じる。</p> <p>(藤井) 昨年はコロナ禍ではありましたが、北海学</p>

			<p>園のあるゼミで社長 100 人リレーというものをやっております。最終的にはそれを一冊の本にするようです。取材に来て次の社長さんを紹介していく仕組みです。おもしろい企画だと思いました。</p> <p>(落合) 新型コロナの長期化で観光学科は厳しい状況が続きますが、業界ではそれまでの知見を活かして旅行関係以外での収益確保をしています。観光分野から聞ける新分野の研究もいかがでしょうか。</p> <p>(久野) 商業系列の学科にとって資格取得の重要性から、入学前取得者に対する何らかの具体的な優遇措置が講じられていたり、さらにその上位取得者への挑戦意欲を高め、取り組みを進めるための指導援助がさらに求められよう。このことが学校のステータスの向上に直接つながっていると思われる。</p>
4. 学修成果	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率向上の指導計画が適切になされているか</li> </ul>	<p>(久野) 「社会人講座」の実施などは学校の存在意義や地域への貢献などの役割を果たしており、有益な取り組みである。</p> <p>「学生による前・後期の授業評価アンケート」の実施の前段として、個々の教員による「授業シラバス」の作成に加えて授業担当科目に対する年度目標(授業の改善点、具体的な数値目標の提示など)の管理職への申告と合わせて、それらの実現度合がどうであったかを互いに認識しあうことが次へのステップになると思われる。</p> <p>「学生による前・後期の授業評価アンケート」の実施によって作成される「レーダーチャート」及び個々の教員に対しての「学生コメント」の本人への開示は必須であり、「授業づくり」への効果は絶大であると同時に、個々人の反省材料、改善の具体的な指摘であり極めて有益である。</p> <p>「教頭、教務部長による授業見学結果」における数値を見ると、ほとんどが「3」「4」が多く、どちらかと言えば平均的評価になりすぎている感がある。個々の教員に対しても「ほめて伸ばす」観点から評価「5」があっても良いし、逆に強く改善を求める意味合いから評価「2」の指摘と改善を求める具体的な指摘がコメントとして記載されればよいと思われる。</p>
5. 学生支援	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> </ul>	<p>(久野) 「CA 企業講話」「インターンシップ」「企業説明会」等を始めとして、商工会議所があらゆる面で CA へのバックアップ機能が顕著に表れており、頼もしい限りである。このような事実内容や有効性を広く内外に周知することに注力する必要があるのではないだろうか。</p>
6. 教育環境	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>	
7. 学生の受入募集	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果が正確につたえられているか</li> </ul>	<p>(池田純) あらためて募集状況の厳しさを感じます。札幌地区公立高校入試倍率から人口の一極集中が窺える中、さらなる他の専門学校との違い、四年制大学にも負けない資格取得等を積極的に PR されることを期待します。</p> <p>(久野) 広報活動において、全道各地の商工会議所や経済団体等に関わる出版物等への記載はある意味限定的な読者層を相手にしており、一般の新聞等への広告などの利用(費用もかかるが)により広く多くの人々への周知の可能性を求めることも大切であ</p>

			<p>と思われる。</p> <p>募集要項、学校案内等におけるOB、OGの活躍紹介は学習成果の発表でもあり高校生、現役学生、保護者、高校教員に向けてCAで学ことによる具体的な書雷蔵の揭示であることから極めて有益な情報であり、幅広く取り上げる必要がある。</p>
8. 財務	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・財務について会計監査が適正におこなわれているか</li> </ul>	
9. 法令順守 (コンプライアンス)	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> </ul>	

10. 情報提供・助言等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめとして上記以外での意見等</li> </ul>	
--------------	--	--	--